

教科	美術科	学年	第1学年	担当者	水上 雅代
----	-----	----	------	-----	-------

**【教科目標】**

- 1 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- 2 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身につけ、意図に応じて創意工夫し表現する能力を育てる。
- 3 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高めよさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。
- 4 主体的に考え、考えを作品にするために必要な情報を集める力をつける。集めた資料を工夫して活用したり学んだ技術を自分なりに活用する力をつける。

**【使用教科書・教材等】**

教科書：美術1(開隆堂出版) 副読本：美術資料(秀学社) クロッキー帳 アクリルカラー

**【学習計画】**

学期	題材名	学習のねらい(身につけたい力)	準備物
1 学 期	美術を始めるのにあたって(ガイダンス)	・美術でなにを学ぶのかを知る これからの学習内容に関心を持ち、学習の意義や内容、評価について理解する。	教科書
	鑑賞「心惹かれる情景」	・作品鑑賞とは何か理解する。 ・絵画を観て感じたことを言葉で表現することができる。 ・観察することにより色々なことを発見する。ほかの人の意見を聞いて考えることができる	クロッキー帳
	レタリング(形を描く)	・多様な書体の特徴を理解する。 ・補助線の引き方や定規の扱い方を理解し、正確に補助線の使い方を理解できる。 ・手順を理解し、補助線を利用して文字の拡大ができる。	アクリルカラー
	色彩について	・色の三原色、色の三要素について、色の感情について知る。	鉛筆 定規 筆記具
2 学 期	文字のイメージを色と形で表現	・レタリングを正確に美しく仕上げることができる。 ・自分のイメージを表す形を考え、いくつもの構成のアイデアを出すことができる。 ・テーマにあった独自の構図を考えることができる。 ・色彩の効果を考え、テーマにあった効果的な配色ができる。 ・自分が表現したいものを表現するために色を工夫して作り出すことができる。	鉛筆 画用紙 カッター
	鑑賞	・作品を見比べることにより国や時代の違いを観察し、作品を楽しんで味わう。	
3 学 期	和柄について	・日本に古来よりある和柄について知る。 ・目的や状況にあわせ、美的感覚を働かせて、構成や装飾を考えることができる。	
	鑑賞「やのべけんじ」	・ただ見るだけではなく知識を持ってみると見方が変わることを知る	
	染色(工芸) デコパージュ(工芸)	・孔版について理解し版をつくり使用することができる。 ・リピート柄について知り、版を工夫して使用することができる。 ・色や刷り方を工夫できる。 ・作品にこだわりを持つことができる。	染料 スポンジ 新聞紙

※生徒の様子、学習状況や進度によって、題材の順番の変更や改変をすることもあります。

**【評価の観点と評価の方法】(通知表のつけ方)**

評価の観点	美術への関心意欲態度(25%)	発想や構想の能力(25%)	創造的な技能(25%)	鑑賞の能力(25%)
評価の観点の趣旨	表現することに関心をもち主体的・意欲的に楽しみながら取り組むことができる。制作過程で妥協をしない。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的などを基に豊かに発想し、形や色彩の構成などを工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	学んだことを生かし、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考えたりし、創意工夫して表現している。美しく丁寧に制作しようとする。	美術作品に親しみ鑑賞することができる。一方向からだけの見方ではなく、ほかの人の意見や見方を参考にしながら多角的に作品を鑑賞し自分なりの考えをまとめることができる。
評価の方法	・毎時間の授業の様子(制作に取り組む姿勢)(準備物、片付け含む) 作品、プリントなどの記入内容や授業の様子	毎時間の授業の様子 ・授業中の活動の中での構想や取り組む様子。 作品、下図、プリントなど提出物含む	・毎時間の活動の様子 ・作品への手の入り。 ・用具を正しく丁寧に使う 用具を工夫して使う ・素材の特徴を生かす ・意図に応じた表現法	・授業中の活動の様子 ・鑑賞プリントの内容

**【授業の受け方・学習のポイント】(担当の先生からのアドバイス)**

- 1 集中して授業に取り組みましょう。  
・1時間1時間を大切に、授業時間を有効に使いましょう。もしも、時間が間に合わない場合などは家庭学習で補うことも必要になります。(構想・発想段階・準備段階)しかし、作品の制作についての家庭での補習は認められません。欠席などで遅れている場合には申し出ると補習は可能です。
- 2 題材ごとに、何を大切にしないか理解し、完成予想をしっかりとイメージし制作していくことが大切です。
- 3 考え、決定し、表現する課程の中で完成させる喜びを味わうために各段階での努力を惜しまない。
- 4 必要な情報を準備して授業に臨み、用具などを大切に扱い、管理もきちんとするよう習慣づけよう。
- 5 できあがった作品は大切にしよう。作品はその人自身であると思って他人の作品も大切にしよう。

**【家庭学習の進め方・学習のポイント】(担当の先生からのアドバイス)**

日常生活で、普段なにげなく見ているものの中に、形や色の美しさ・面白さを発見し感じるようになれば、美術への興味が一層深まります。又、自分から進んで美術の本や写真を見たり、時には美術展などに足を運んでみるのも良いでしょう。たくさん本を読んでいろいろなことを想像できるやわらかい感性を育てよう。世の中にあるものすべてが美術の授業では役に立ちます。新聞を読んだり、ニュースを見たりというのは考えたり表現したりするうえでの助けになります。好奇心をもっていろいろなことに挑戦することが大切です。

